

調査結果報告

若者就職意識調査 企業フォローアップ調査

地域中小企業・小規模事業者の人材確保支援等事業

近畿経済産業局 地域経済課

若者就職意識調査の概要

【目的】 学生等の就職活動の意識調査を行い、中小企業における人材確保に有用な情報を分析する

【調査対象】 大学生を中心とした学生（平成31～32年卒業予定）

【調査期間】 平成30年5月～7月

【調査方法】 アンケート調査（学校の授業内及びWEBで実施）

ヒアリング調査（座談会形式・近畿各府県（※）で実施）

【アンケート回答者数】 1,272名

【性別】 男性478名 女性789名

【文理】 文系1,033名 理系86名 その他123名

【平均年齢】 20.2歳

【実施校】 近畿圏の大学・短大等 46校

※本事業での「近畿」とは福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県をさします

企業フォローアップ調査の概要

【目的】：当局が実施したセミナーやマッチング会に参加した企業の求める人材像、対象層等を分析する

【調査対象】：平成28年度、29年度に当局事業（セミナー、マッチング会等）へ参加した、近畿圏の中小企業及び小規模事業者

【調査期間】：平成30年5月～平成30年7月

【調査方法】：郵送及びGoogleフォームを活用したWEB調査

【配布方法】：郵便による調査票の配布、メールでの回答URLの送信

【回収方法】：F A Xまたはメールによる調査票の回収、Googleフォームへの回答

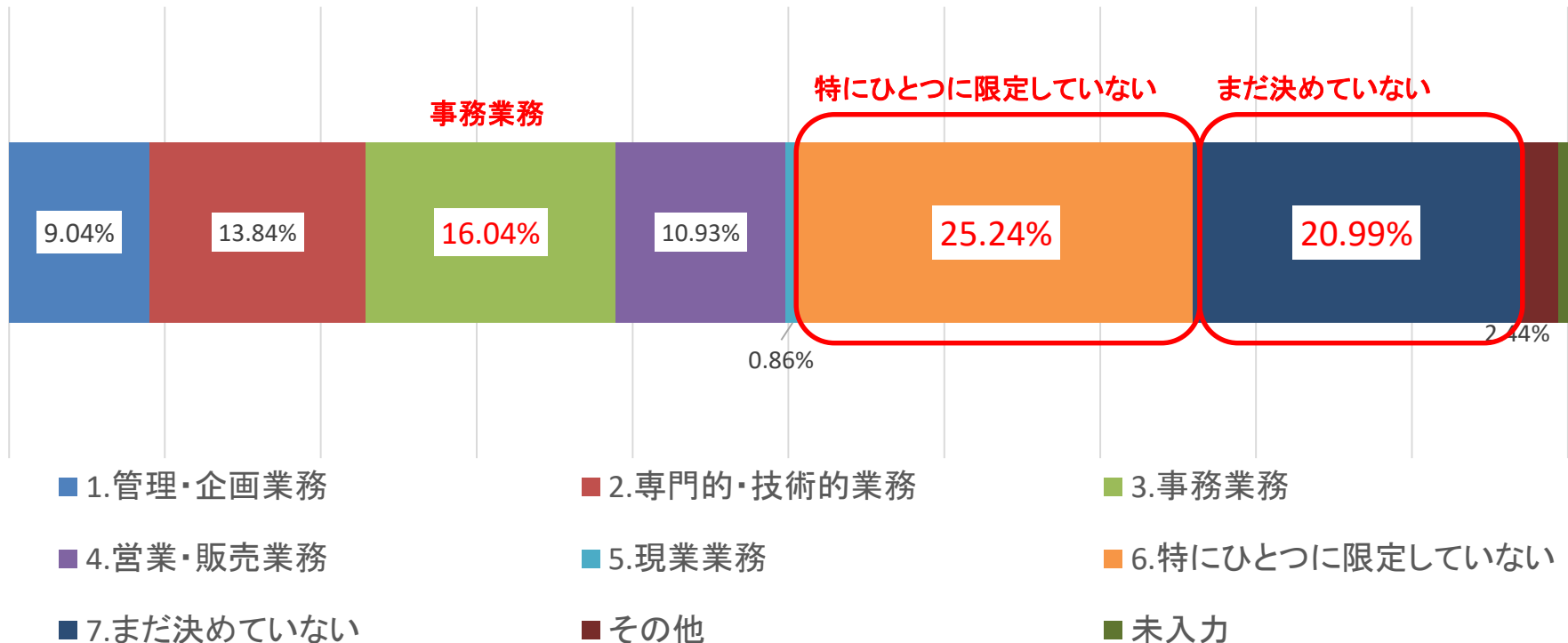
【回収数】：541（回収率：24.7%）

福井県	64	滋賀県	32	京都府	50	大阪府	114	兵庫県	36
奈良県	134	和歌山県	89	その他	22				

報告内容

- 学生が希望業務・希望業種・会社を選ぶとき重視すること
- 学生が就職を希望する企業規模
- 中小企業が就職先の候補となりえるか
- 企業が考える自社の魅力と学生が考える中小企業の魅力の比較
- ヒアリング座談会から見えた課題と傾向
- まとめ

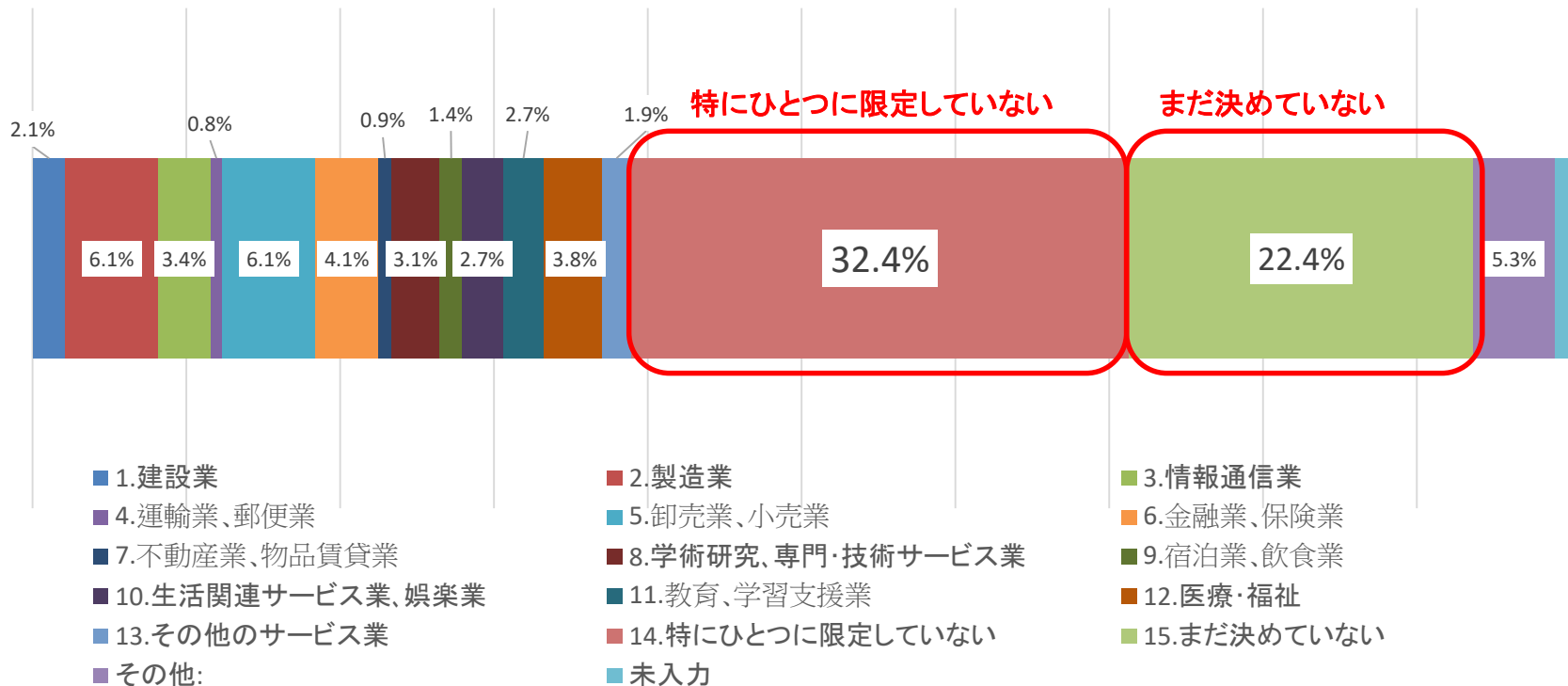
学生の希望業務



◆ 学生の希望業務については、「特にひとつに限定していない」「まだ決めていない」が多く、合わせると46%。

※ 「事務業務」については根強い人気があるものの、消極的選択である場合も多く、仕事内容の説明によっては変更の可能性があると考えられる。

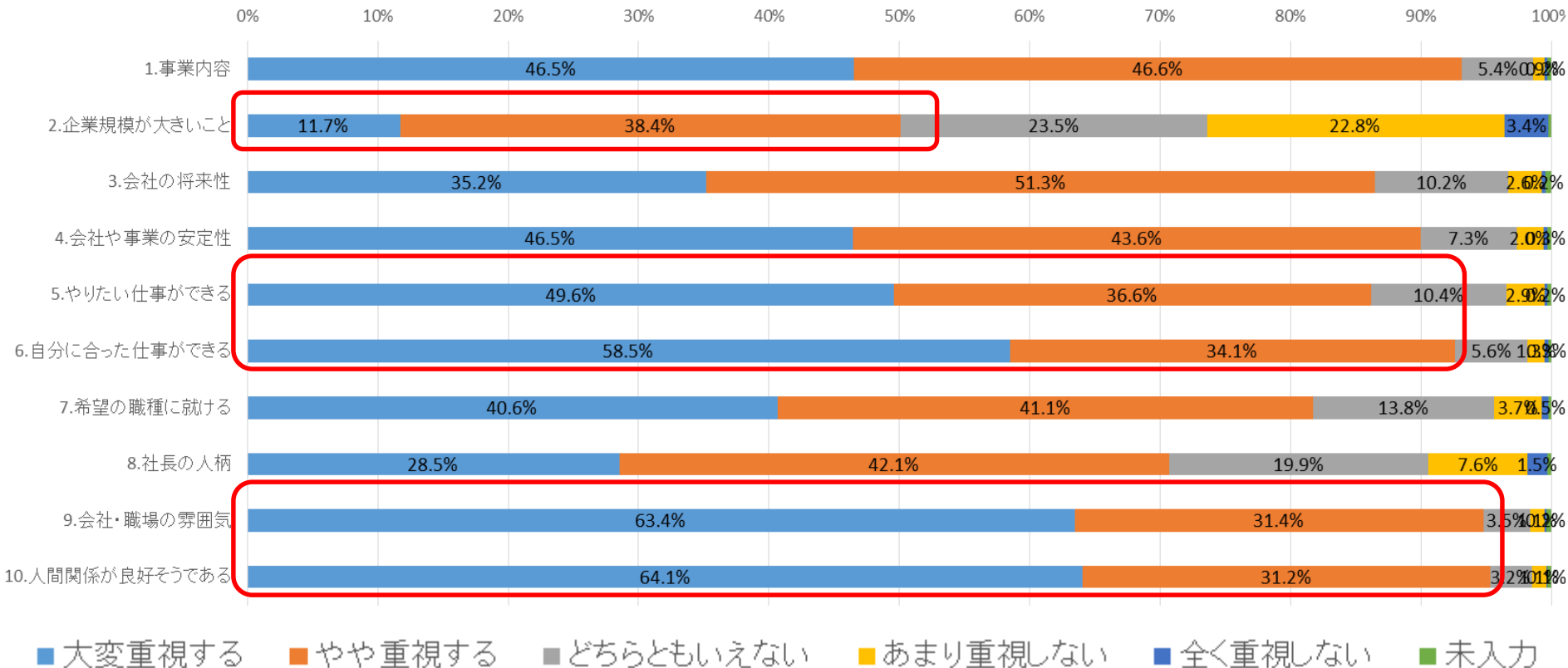
学生の希望業種



- ◆ 学生の希望業種についても、「特にひとつに限定していない」「まだ決めていない」が多く、合わせると54.8%。
- ◆ 製造業、卸・小売が他の業界よりも多少人気。また、金融・保険(すなわち銀行等)の人気が続くのは学生ならではの特徴。

会社を選ぶとき重視すること①

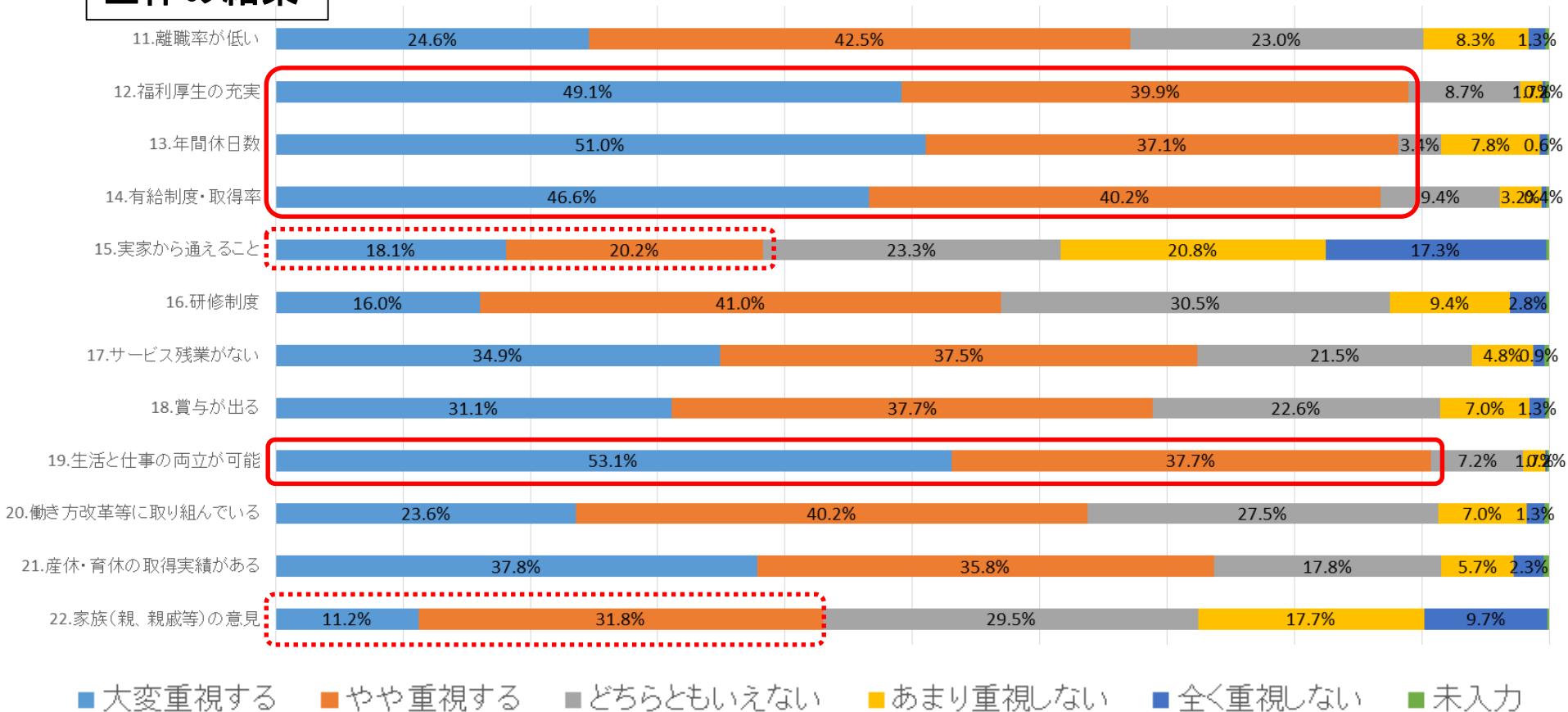
全体の結果



- ◆ 「会社・職場の雰囲気」「人間関係が良好そう」については、「大変重視する」「やや重視する」を合わせて9割以上であり、特に「大変重視する」回答が多い。
- ◆ 会社の規模を重視する割合は50.1%で他の項目と比較するとそれほど多くない。
- ◆ 「会社の将来性」「会社や事業の安定性」も重視する者が多いがそれよりも、「自分に合った仕事ができる」「やりたい仕事ができる」と回答するものが多い（「大変重視する」が多い）
「やりたい仕事」よりも「自分に合った仕事」と回答する者の方が多いのが特徴）。

会社を選ぶとき重視すること②

全体の結果

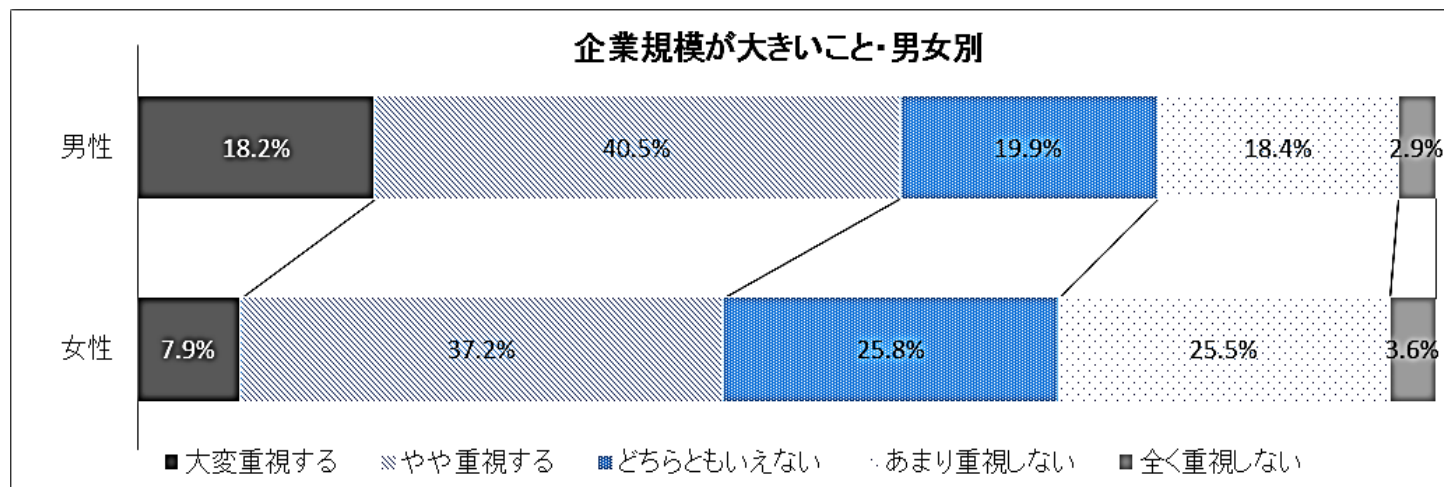


◆「福利厚生」「年間休日」「有給制度」「生活と仕事の両立が可能」について、約9割の学生が「重視する」と回答。

◆「実家から通えること」「家族(親、親戚等の意見)」については、それほど多くなく、「重視する」と回答したのは4割程度にとどまる。

会社を選ぶとき重視すること（各項目の内訳）

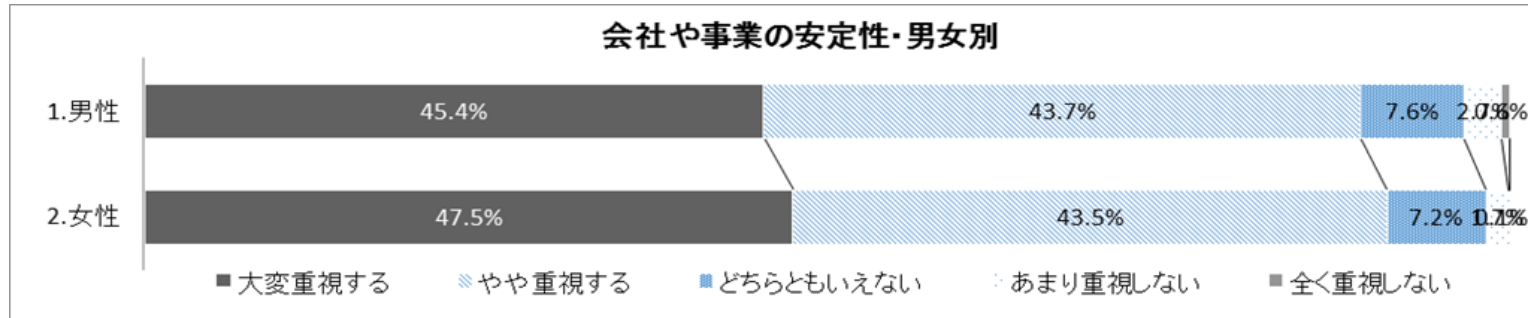
「企業規模が大きいこと」の男女別内訳



◆ 男性は、「大変重視する」「やや重視する」を合わせて58.7%が「企業規模が大きいこと」を重視すると回答。女性は、45.1%と男性ほど高くはない。

会社を選ぶとき重視すること（各項目の内訳）

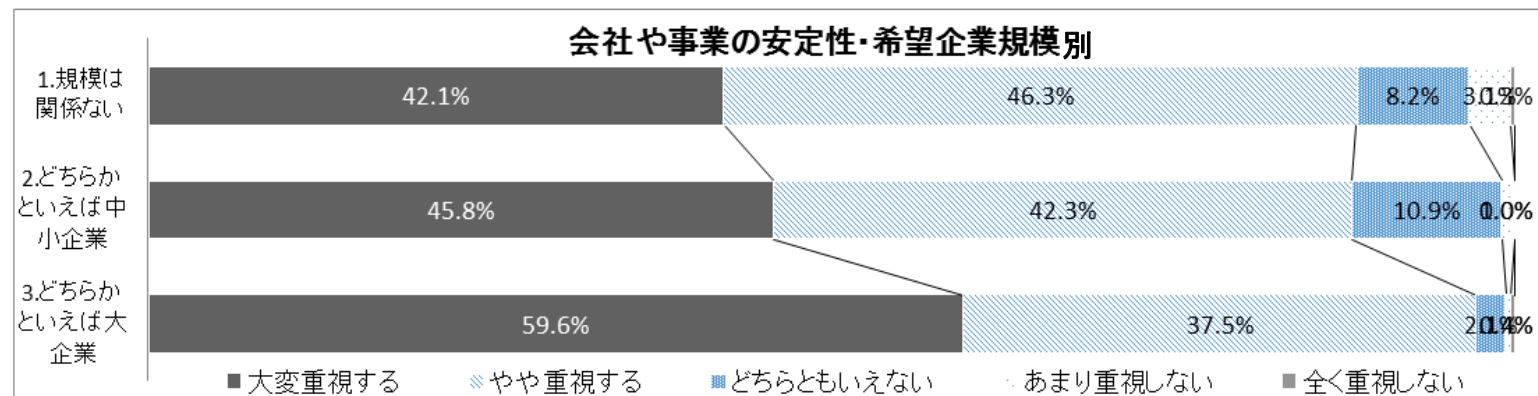
「会社や事業の安定性」の男女別内訳



◆「会社や事業の安定性」については、男女でそれほど差はない。

「会社や事業の安定性」の希望企業規模別（※）内訳

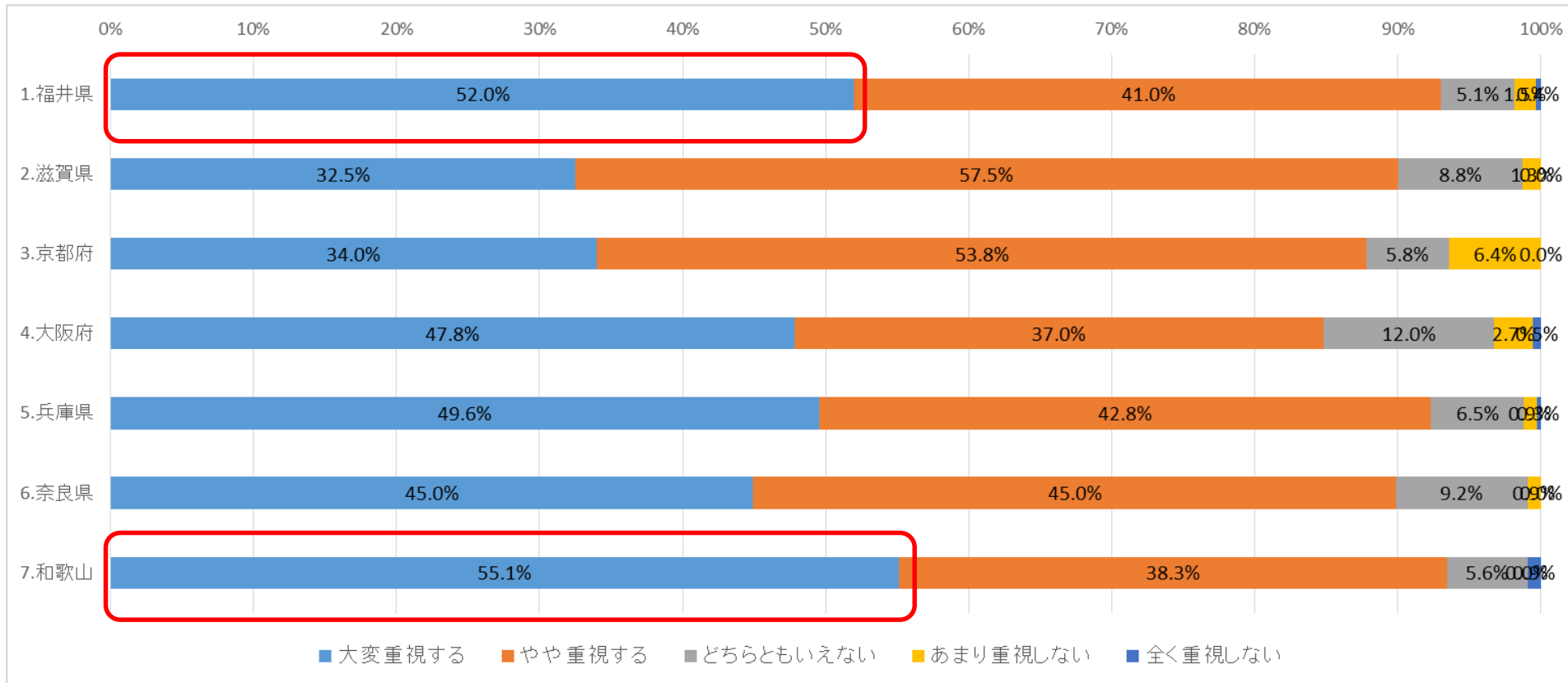
※P12 「就職を希望する企業規模について」を参照



◆ 希望する企業規模について「どちらかといえば大企業」と回答した学生のうち約6割が「会社や事業の安定性」について「大変重視する」と回答している。

会社を選ぶとき重視すること（各項目の内訳）

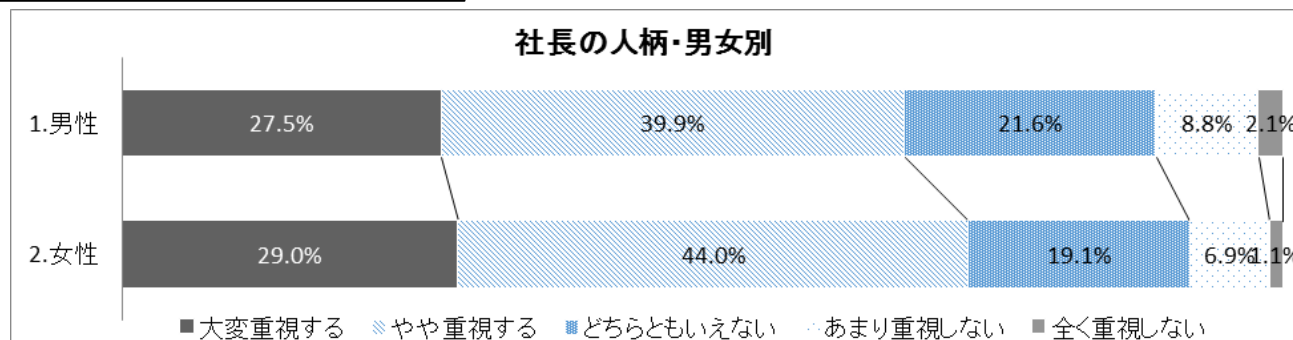
「会社や事業の安定性」の府県別内訳



◆ 福井県、和歌山県は会社や事業の安定性を「大変重視する」と回答するものが半数を超える。

会社を選ぶとき重視すること（各項目の内訳）

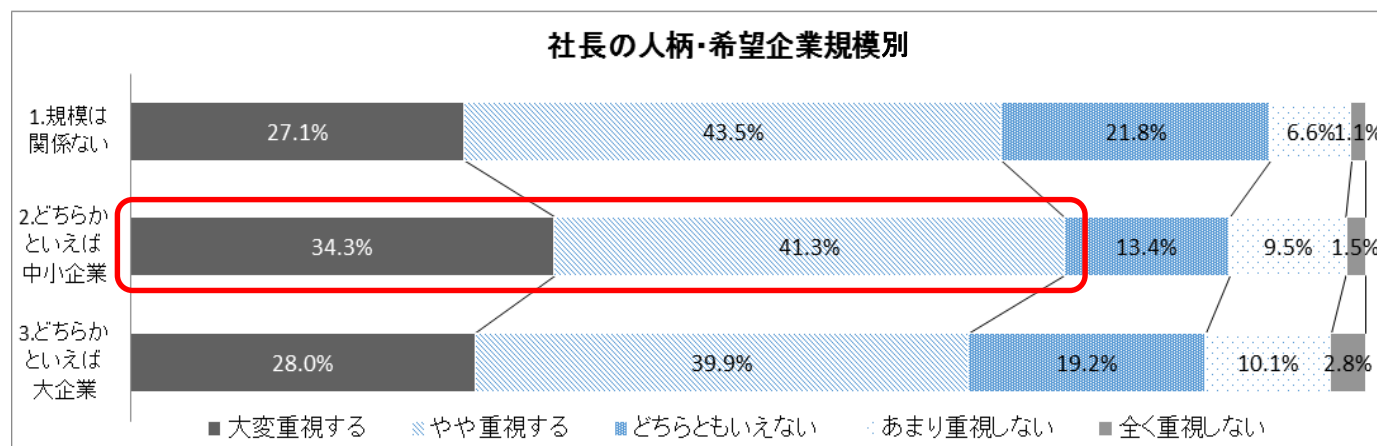
「社長の人柄」の男女別内訳



◆ 「社長の人柄」については、「大変重視する」「重視する」との回答が男性67.4%、女性73%と、女性の方が若干高い。

「社長の人柄」の希望企業規模別(※)内訳

※P12 「就職を希望する企業規模について」を参照

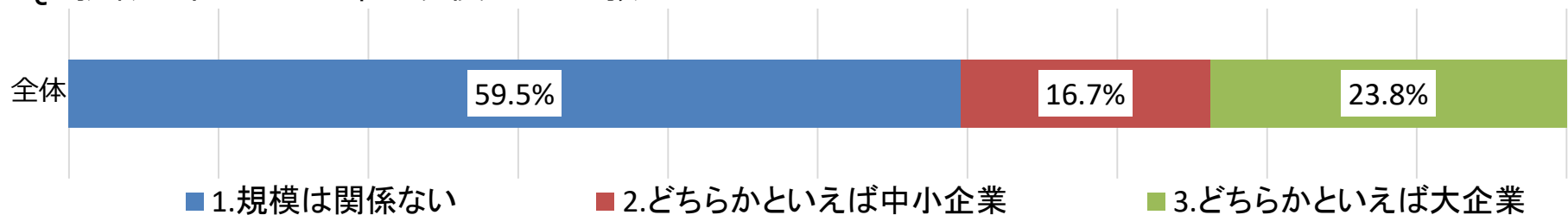


◆ 希望する企業規模について「どちらかといえば中小企業」と回答した学生は、「社長の人柄」を重視する割合が高い(75.6%)。

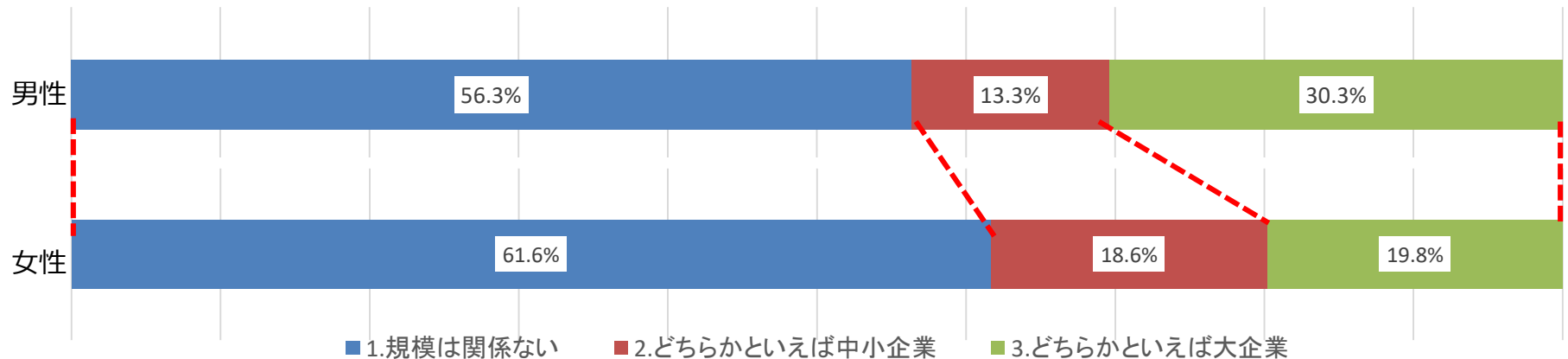
就職を希望する企業の規模について

Q. 就職を希望する企業の規模について教えてください。

(n=1,206)



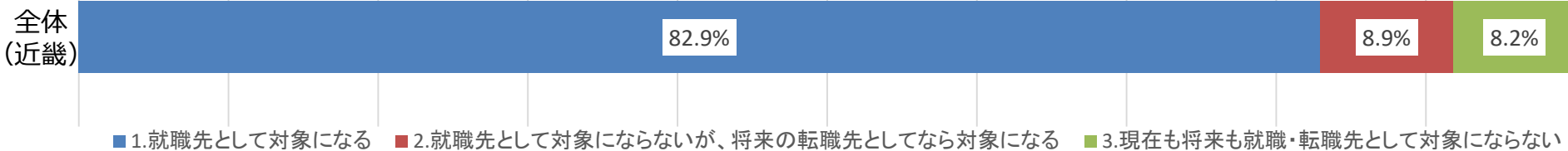
- ◆ 「企業規模は関係ない」とする者が59.5%と大多数。
- ◆ どちらかと言えば中小企業という者も16.7%存在する。



- ◆ 女性の方が中小企業志向が高い（おそらく地元志向と関連あり）。
- ◆ 企業規模は関係ないとする男性も56.3%となっている。

中小企業は就職先の対象となるか

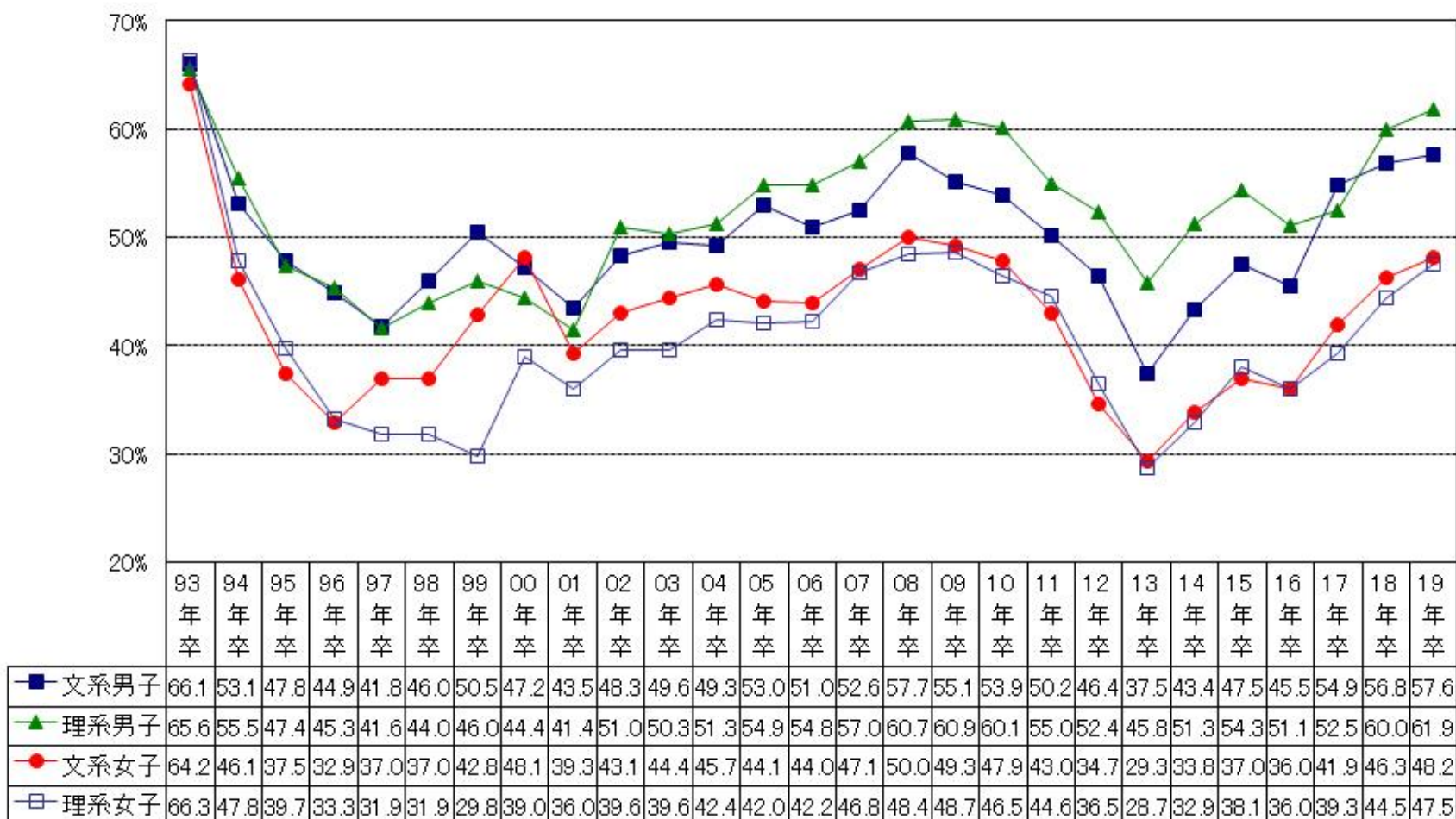
Q.近畿2府5県（福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）の中小企業は、あなたの就職先として対象になりますか。
(n=1,165)



- ◆ 中小企業が就職先として対象となると回答した者が82.9%。
- ◆ 「将来の転職先としてなら対象となる」という回答と合わせると91.8%が就職先として対象となると回答。

参考：マイナビ学生就職意識調査2019年卒

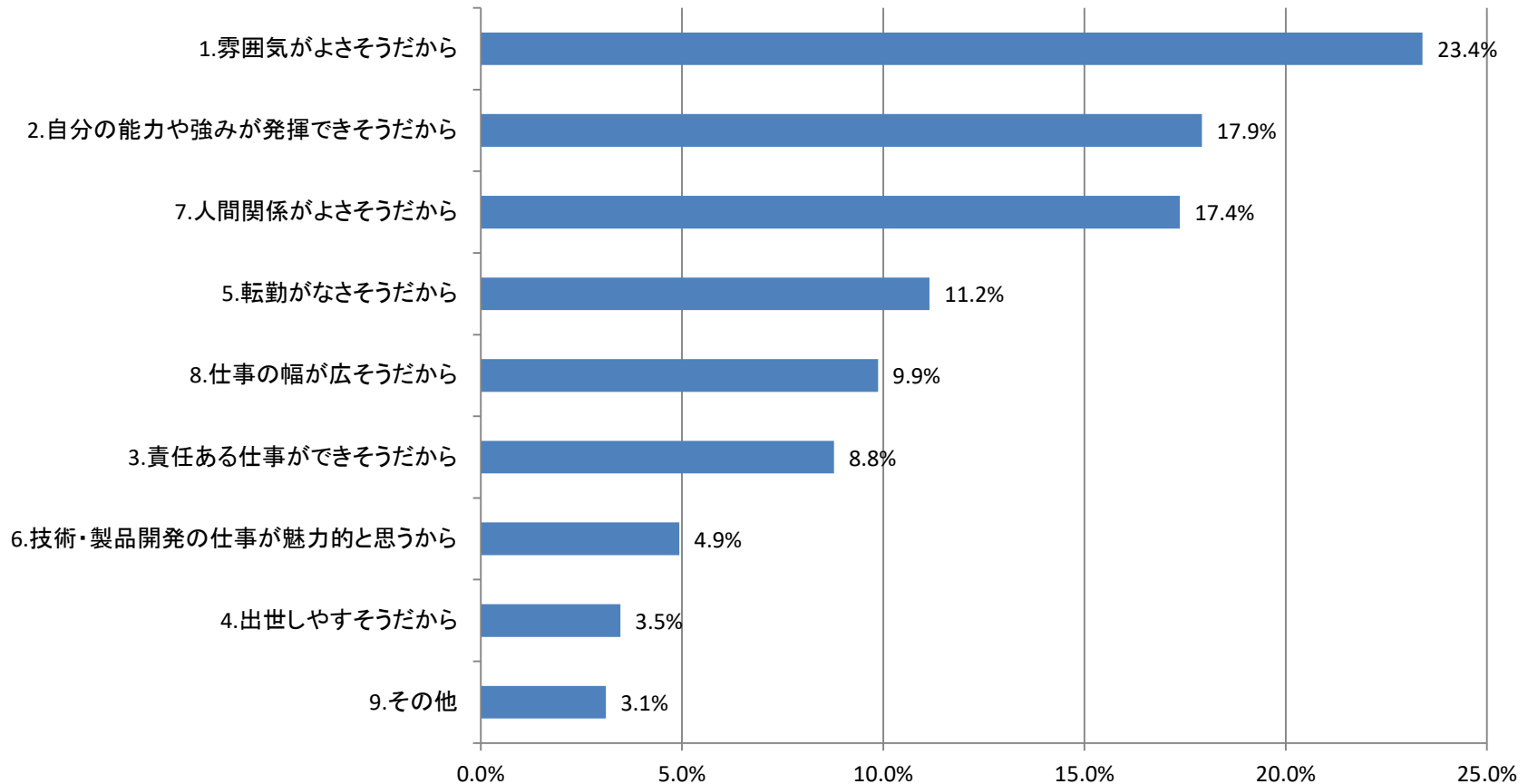
大手企業志向推移 【「絶対に大手企業がよい」＋「自分のやりたい仕事ができるのであれば大手企業がよい」】



- ◆ マイナビ等を中心に活用する層と、本調査のメインの層が異なる可能性有り。
- ◆ (地元志向が強く、中小企業を早くから就職対象としている層が一定数存在する可能性)。

中小企業を希望する理由

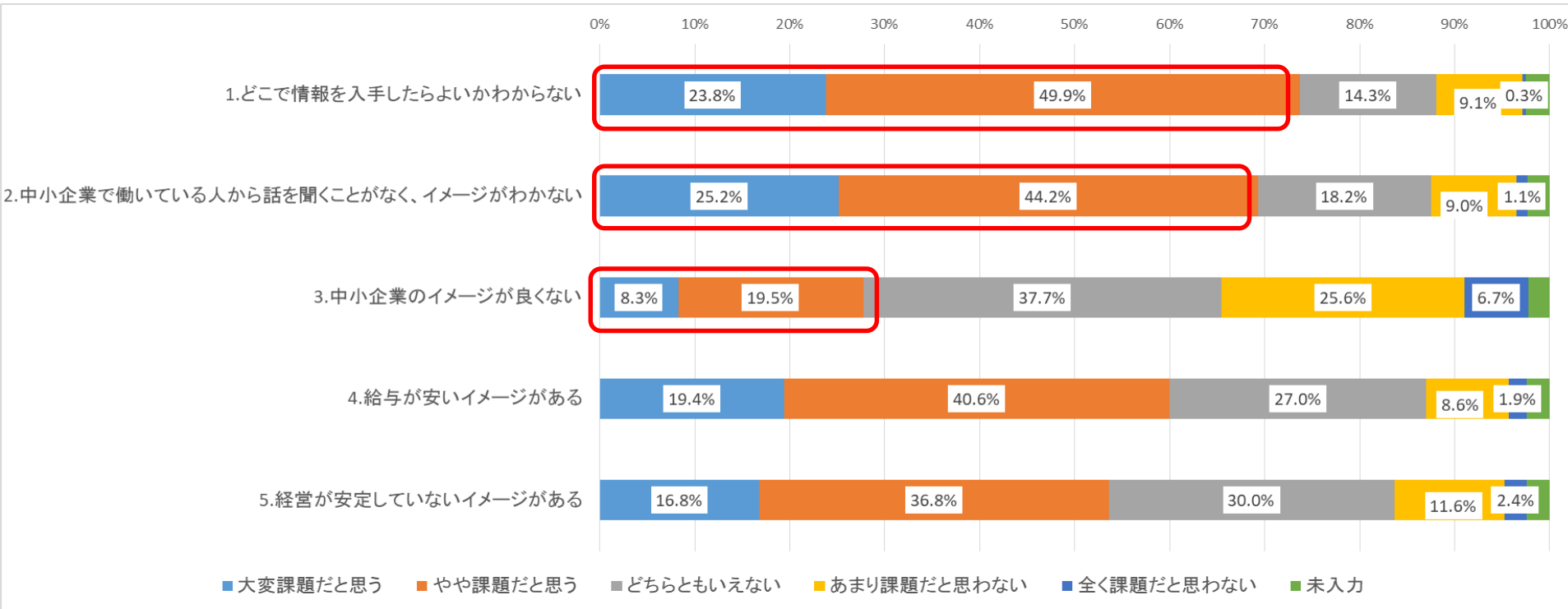
複数回答



◆ 「雰囲気がよさそう」との回答が最も多い。

◆ 次いで「自分の能力、強みが発揮できそう」「人間関係がよさそう」と続く。

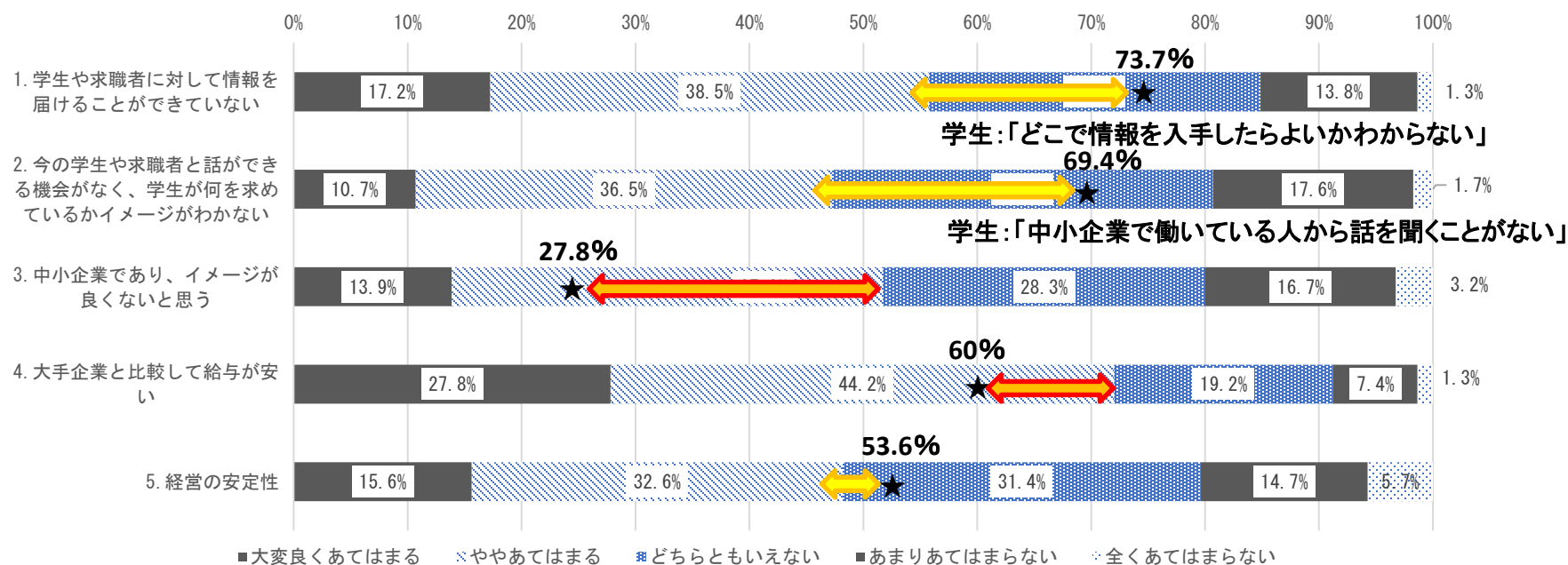
中小企業を就職先として考える場合の課題



- ◆「どこで情報を入手したらよいかわからない(73.7%)」、「中小企業で働いている人から話を聞くことがなく、イメージがわからない(69.4%)」が課題であると認識。
- ◆「中小企業のイメージが良くない」については3割以下とそれほど多くない。
- ◆「給与が安いイメージ」「経営が安定していないイメージ」を持つ学生は少ない。これらを払しょく、あるいはカバーできる情報を積極的に出す必要があるのではないかと考えられる。

中小企業が考える採用における課題

★・・・学生が「大変良くあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合



↔ 企業の方が課題だと感じている

↔ 学生の方が課題だと感じている

- ◆ 企業が課題に感じている「中小企業であり、イメージが良くない」「大手企業と比較して給与が安い」について、課題と感じている学生は少なく、ギャップがある。
- ◆ 学生側は、中小企業に関する情報の入手や、働いている人から話を聞く等、「中小企業側との接点の少なさ」について、企業よりも課題に感じているとみられる。

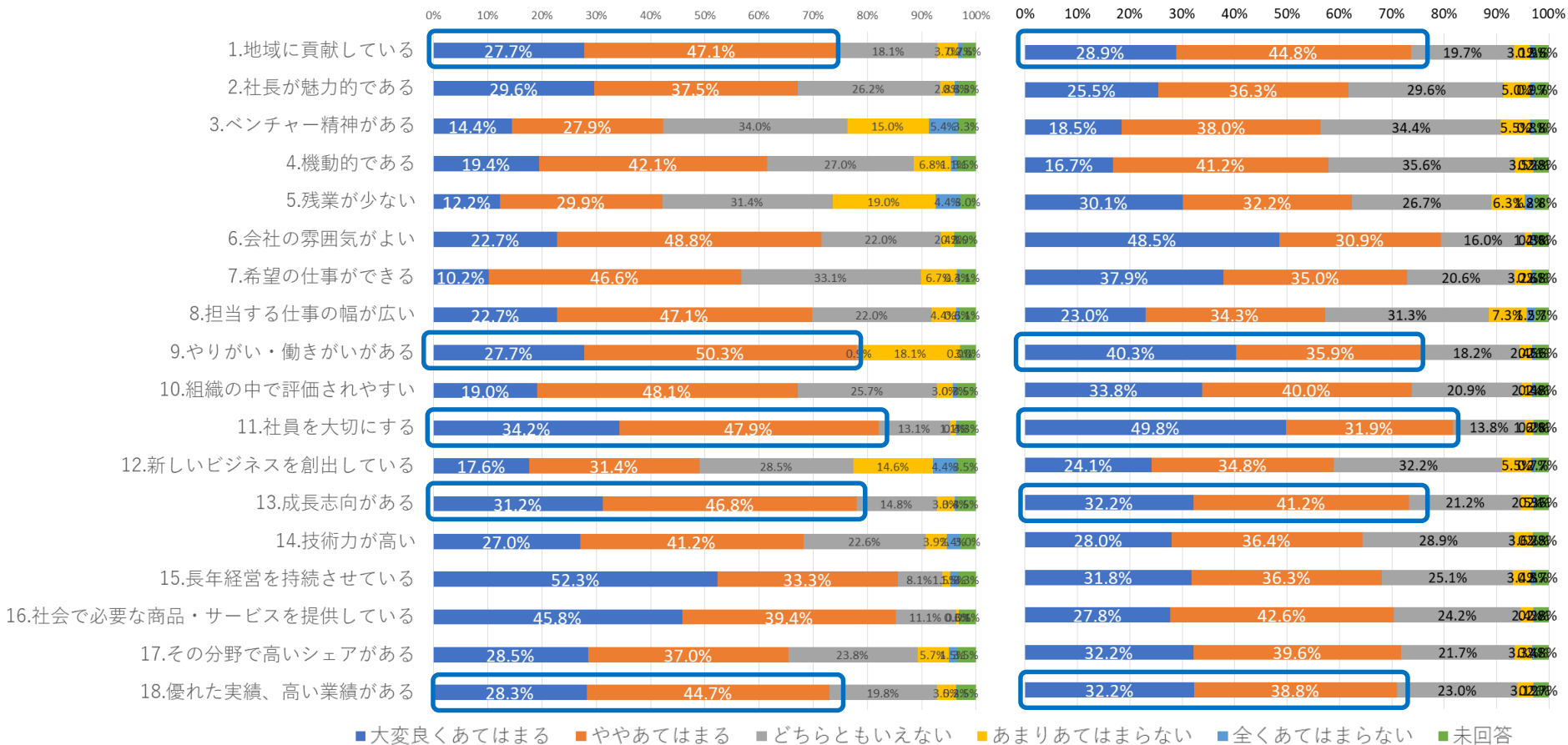
中小企業の良い点の比較①

学生アンケート調査

企業アンケート調査

中小企業が考える自社の魅力

学生が考える中小企業の魅力



両者ともに「中小企業の良い点」として認知している項目

- ◆ 地域貢献、やりがい・働きがい、社員を大切にする、成長志向、優れた実績がある、等については、両者ともに「中小企業の良い点」として認知する回答が多く、それほど差はない。
- ※ 学生にアピールする項目としては他社と差のつかない点であるとも言える。

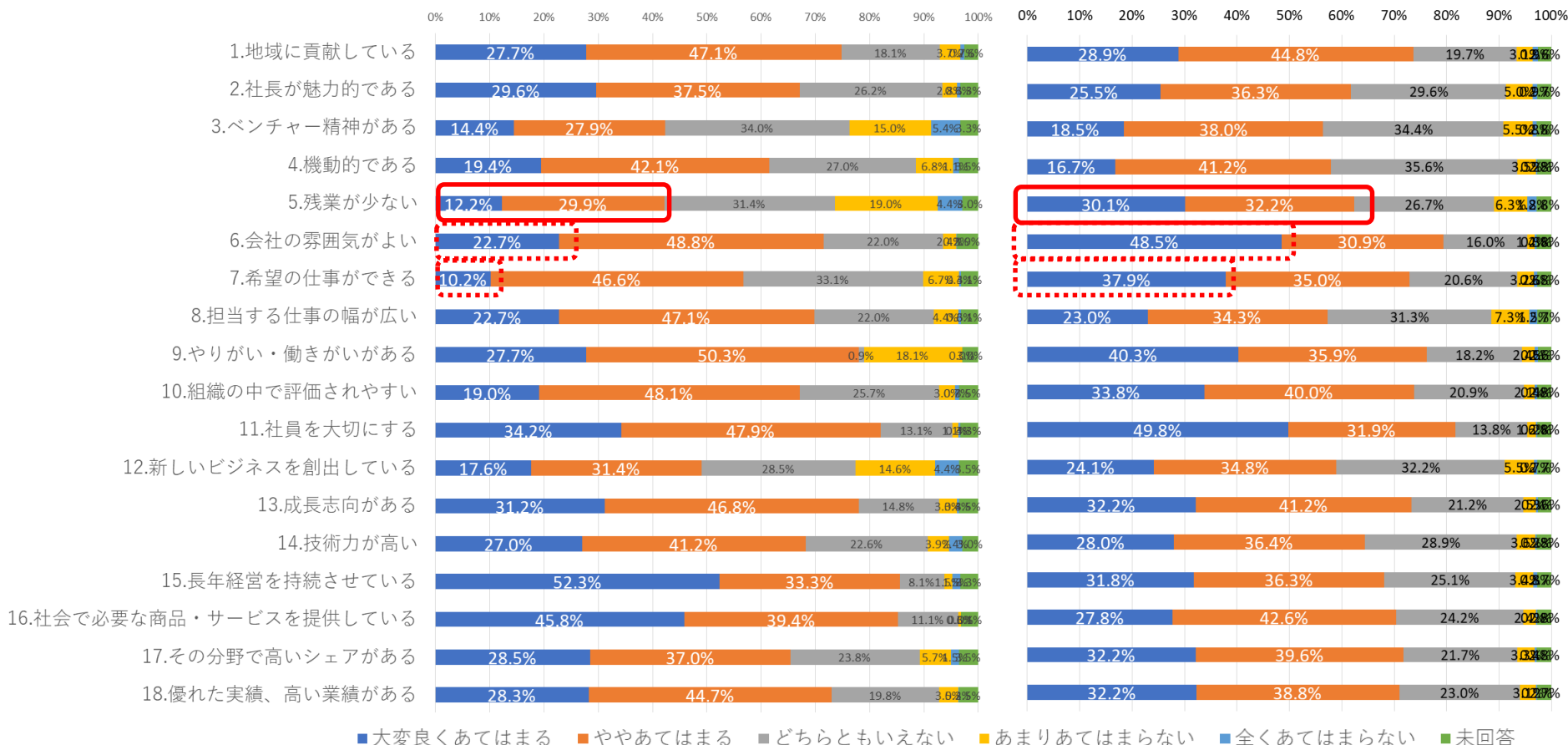
中小企業の良い点の比較②

学生アンケート調査

企業アンケート調査

中小企業が考える自社の魅力

学生が考える中小企業の魅力



学生側が中小企業に期待しているが、企業側がそれほど魅力に思っていない項目

- ◆ 学生の中には「残業が少ない」ことを上げる回答が62.3%あるが、中小企業では42.1%と乖離がある状況。
- ◆ 「会社の雰囲気がよい」、「希望の仕事ができる」という点については、「大変良くあてはまる」との回答がそれぞれ48.5%、37.9%と多いが、中小企業ではそれぞれ22.7%、10.2%となっている。

- ※ 上記項目を自社の魅力として認識している企業は大きくアピールすべきであると言える。
- ※ 「希望の仕事」については、大企業と比較してどうか、ということで理解すべき。ジョブローテーション等がなく、入社前と入社後でそれほどギャップがない点をこのように評価している可能性がある。

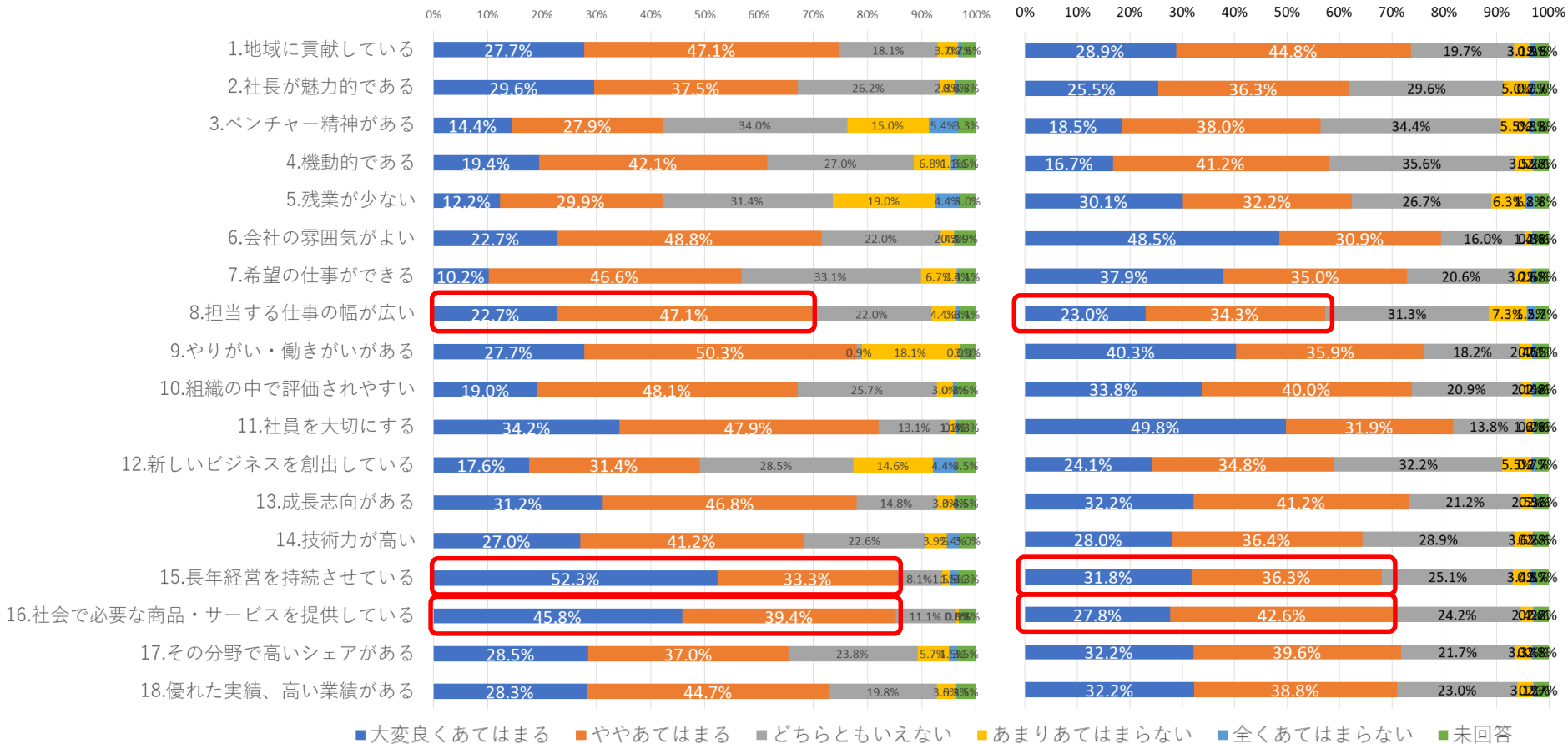
中小企業の良い点の比較③

学生アンケート調査

企業アンケート調査

中小企業が考える自社の魅力

学生が考える中小企業の魅力



企業側が魅力に思っているが、学生とは少しいちがひがある

◆ 「担当する仕事の幅が広い」、「長年経営を継続させている」、「社会に必要な商品・サービスを提供している」についてはそれぞれ、企業は魅力に思っているが、学生側はそれほどでもない項目(決して低くはない)。

※ 「仕事の幅が広い」ことがなぜ魅力なのか? 「経営の持続」がなぜ素晴らしいことであるのか? 「社会に必要な商品・サービスの提供」とはどのような魅力なのか? 学生に分かるように説明することが必要。

ヒアリング座談会から見た傾向①

◆ 希望する企業規模については、「大学」「地域」によって異なる傾向が見られた。

以下、抜粋

(福井) 福井の企業は良い企業が中小企業に多いので、規模感は気にせず、良い企業だったら受けようと考えていました。

(滋賀) 基本的に大企業の方が自分が知っている企業が多く、大企業しか知らない状態で、まだ十分に企業について調べてないので、今の段階だったら私は大企業を選びます。

(京都) どちらとは決めていないが、一緒に働く人を重視したいので規模にこだわらず中身重視で選びたい。

(大阪) 私自身が受けていたのはメーカーの大企業。理由としては、まず福利厚生がちゃんとしてた方がいいなっていう願いがあった。

(兵庫) 中小企業はわきあいあいとしてやっていて、大企業は社長さんが従業員のことをあまり知らない感じがする。仲良い方がいいので、中小企業のほうが、今はいいと思っています。

(奈良) 今のところどっちに就きたいとかはありません。福利厚生がしっかりしていればどちらでもいいと思います。

(和歌山) 大企業には入りにくいイメージがあるので。応募しても受かりにくいと思う。

- ※ 福井県、奈良県等は学校のレベル感に関わらず、「企業規模は関係ない」と回答するものが多かった。
- ※ 一方で、京阪神エリアにおいては、比較的大企業を希望する学生が多く、女性の方が「企業規模にこだわらない」とする学生が多かった。(アンケート調査どおり)
- ※ 理系学生については、技術力の向上を狙って、研修制度が整っている大企業を選ぶという回答も多かった。

◆ 中小企業の情報は探しにくい。

- ※ 京阪神等の都市部だと「リクナビ」「マイナビ」では大企業しか見つからない印象を学生が持っており、地元志向の学生が中小企業を探す手段がないことを課題として感じる学生が多い。
- ※ あえて「中小企業を探す」ということをしている学生は少なく、「地元で働けるかどうか」で見ている学生が多い印象であった。

ヒアリング座談会から見た傾向②

- ◆ 企業選びの際は「会社の雰囲気等や社風を重視する」とする学生が多く、次いで、「やりたいことを重視」が多い。
- ◆ インターンシップに参加した後、中小企業の良さに気づいた学生もいる。

以下、抜粋

(福井)人と話をしたりすることが好きなので、営業を希望しており、営業ができることを中心に考えていました。

(福井)やりたい仕事ができるかというところと働いている人の雰囲気が自分に合うかどうかを基準にしていました。

(滋賀)社風や人間関係を結構優先すると思います。社風や人間関係が合わない、すぐに辞める人がけっこういると思うので。

(京都)私は人間関係や社風を重要視していて、仕事を辞めたくないのは人間関係が1番大きいのかなと思っている。この人について行きたいと思える人に出会えるような就活をしたいと思う。

(大阪)人間関係とか、人の良さも入ってみたいと分からないと思う。どこにいてもいい人も悪い人もいると思っているので、そこを最重視する訳ではないです。やりたいことを重視したい。

(大阪)私は社風と人間関係というよりは、人柄と雰囲気を重視します。行きたかった会社は、社員さんと座談会が多かったり、訪問とかもできたので、雰囲気を見ることが出来て良かったです。

(大阪)経営学部での授業でも、大手企業しか出てこない。中小企業を知っているのはたまたまインターンシップで行ったからということが多い。

(兵庫)インターンシップに行く前は、大企業がいいと思っていた。インターンシップに行ってからでは中小企業のよさがいっぱいあって、社員同士が仲がよかったりとか、就職してすぐに責任のある役割とかを任せてもらって、やりがいがあるというのを聞いて、いいなと思ったりしました。

(奈良)会社選びの時には人間関係をすごく重視しています。説明会の30分とか40分とかでも担当者の雰囲気とかでこうの方が働いていらっしゃるとかがわかるので。

(和歌山)人が良いところが良い。人間関係とか、環境で選びたい。やさしい人がいる会社が良い。

- ※ 「会社の雰囲気や社風を重視する」という意見は、インターン等就職活動が進むほど、重視するという回答が多い印象。インターンシップや選考などで、徐々に「違い」がわかるようになり、判断軸に加わっていくのではないと思われる。
- ※ 知っている中小企業はインターンシップに参加した企業のみと回答する学生が多くいた。

ヒアリング座談会から見た傾向③

◆「安定性を重視するか」については、重要視する学生は多いものの、「やりたいことを優先する」と回答する学生も多数存在する。

(福井) 潰れない会社かどうかというところは大事だと思います。

(滋賀) 大企業と中小企業について詳しく知らないです。今のところだと、やっぱり大企業のほうが…選ぶ決め手については、安定しているとか、結構収入の面とかも考えています。

(京都) 就活において安定を求めたことが無く、スタートアップやベンチャー企業でもいいと考えています。ただ、安定感ということで考えるとやっぱり福利厚生がしっかりしていることとか、給料がちゃんと払ってもらえるのかという点かなと思います。

(京都) 安心と安定は別のような気がしていて、安定は僕のイメージでは楽しくない無難なものと感じています。企業が安定しているというのは、淡々と仕事をこなしていくようなイメージです。なので、どちらかというやりりたいこと重視で選びたいです。

(大阪) 安定はしているほうが良いと思ってます。重要度はそれほど高くはないです。私は地域に密着してそこに住んでる人の生活を支えられるような仕事がいいと思っているので、そこを重視したい。安定をメインで選ぶことはしないです。

(兵庫) 私は楽しいが一番です。好きなことができれば、楽しいとも感じられるし、嫌々やるのは嫌なんです。どうせお金を稼ぐなら楽しい方がいい。安定というところについてはあまり気にしていない。

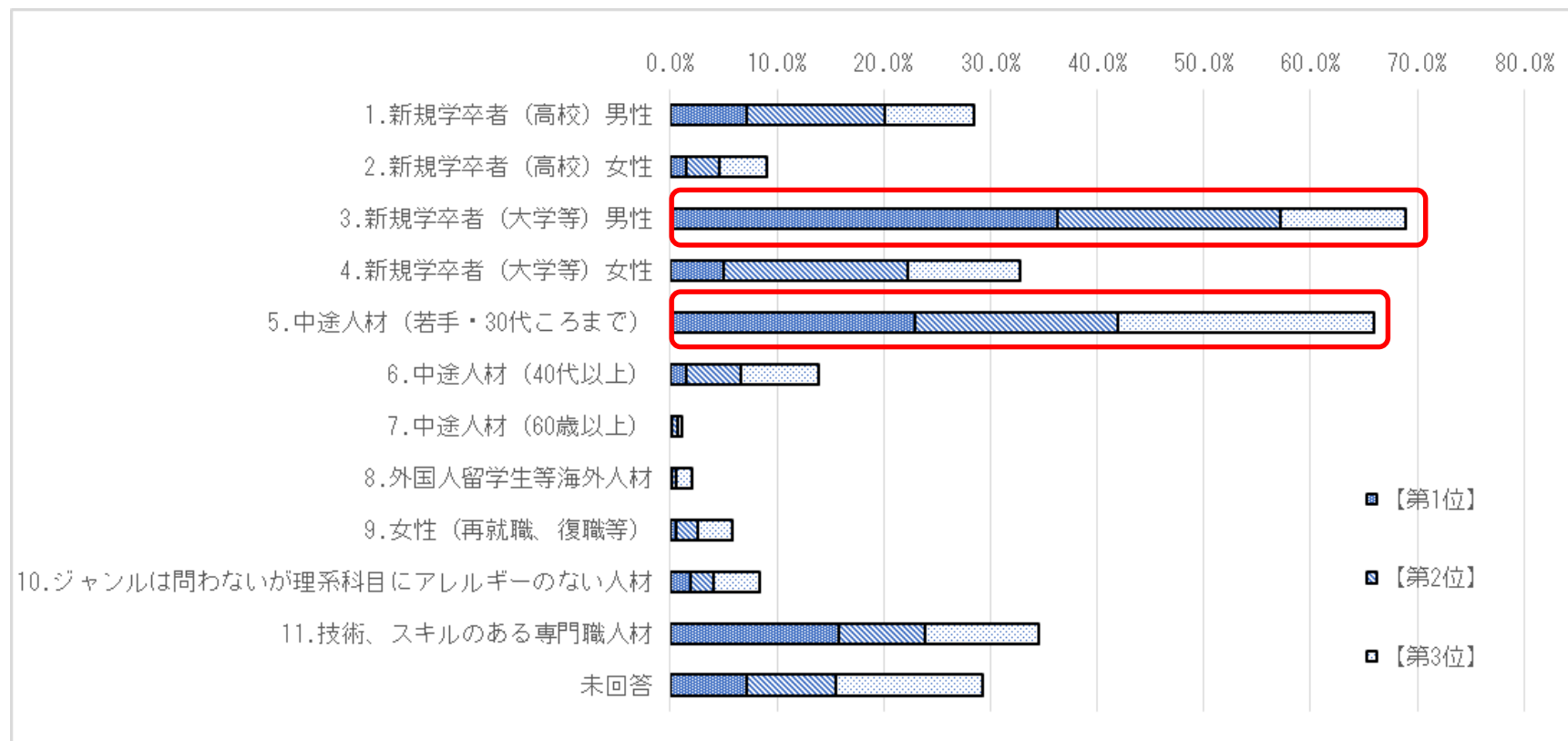
(奈良) 私は安定志向でした。父親が大手で働いていて、やっぱり大手は安定しているからいいよとかずっと就職活動の時も言われていて、私の中でもそれを鵜呑みにしてしまって、大手とか安定しているほうが良いと思っていました。

(奈良) 私は、安定を考えたことがなくて、ほぼ直感で自分とあっているかどうかしか考えてなかったです。やりたいことを重視して選びました。

(和歌山) 仕事を選ぶ際、安定で選ぶか、やりたい仕事で選ぶか、という問いに対して安定を選ぶ学生が多かった。

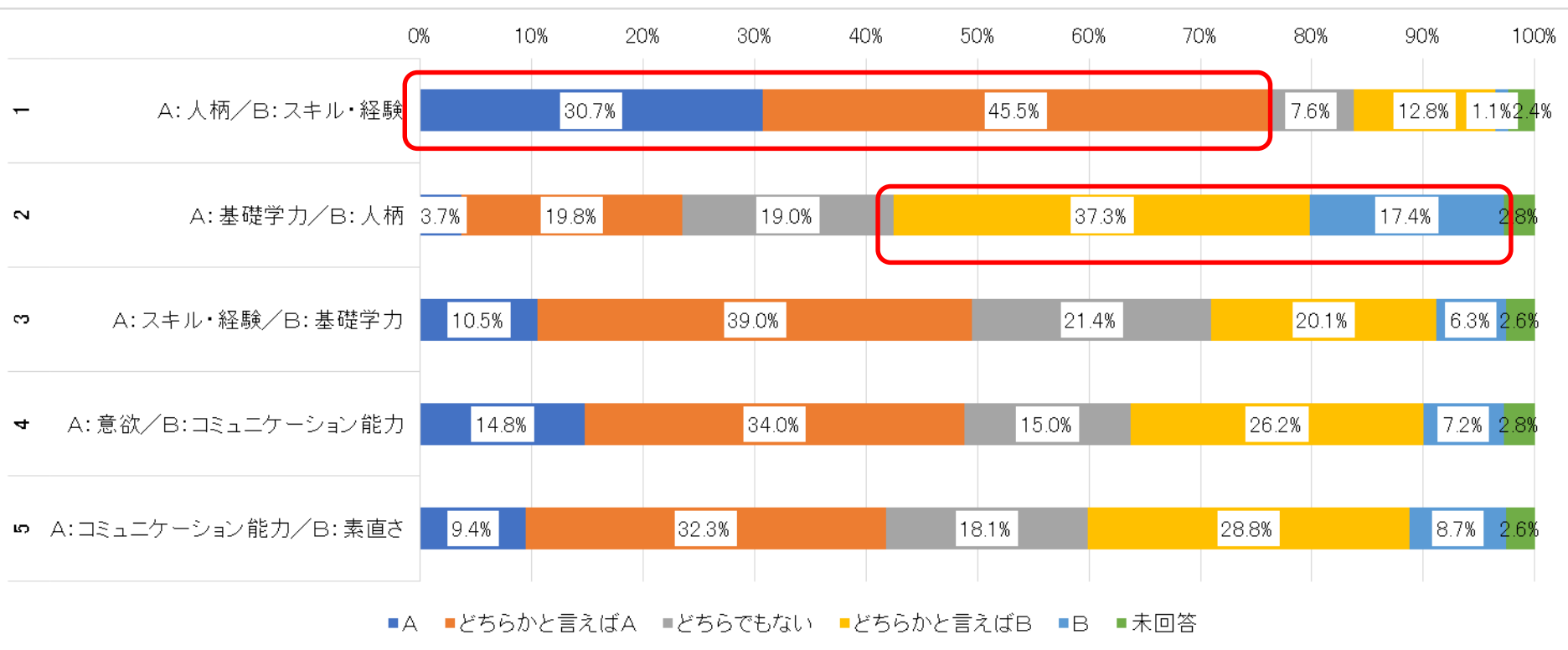
- ※ 座談会でも、アンケート調査の結果と同様、福井県、和歌山県では顕著な安定志向が伺えた。
- ※ 安定については、「安定していた方がよい」と考えるものの、「最優先ではない」といった回答が多く得られた。

重要視している人材（上位3位まで）



- ◆ 第一位から第三位まで合わせると、「新規学卒者(大学等)」「中途人材(若手・30代ごろまで)」に集中している状況。
- ◆ 女性について重要視している企業は少なく、「新卒男性」「中途人材」に集中している状況。

企業が求める能力



◆ 基礎学力やスキル・経験よりも「人柄」を重視する傾向が顕著である。

※ どのような人柄を求めているか、きちんと表現ができるかどうか大切ではないか。

全体のまとめと総括①

会社の規模は「こだわらない」学生が多数

- 会社の規模は「こだわらない」とする者が最も多い結果となり、大企業重視という志向は見られず。大手ナビサイトが実施する調査結果とは異なる結果となった。
- 確実に存在する「規模にこだわらない」「中小企業志向」の学生に対してどのように情報を届けるか、接点を持つか、を考えていくことが大切である。

「やりたい仕事」「自分に合った仕事」重視だが、「希望業務はとくに決まっていない」

- 「やりたい仕事」「自分に合った仕事」重視で探す傾向が強く、これらは世代的な特徴でもあると言える。しかし、希望業務や希望業種では「特にひとつに限定していない」「まだ決めていない」学生が多数存在する。これらの学生に対して早期にアプローチすることで、知らない仕事であっても意欲喚起を促すことも可能であると考えられる。

人間関係や社風を重視

- 学生は、「人間関係や社風」等を重視する傾向があり、これは全国的な傾向とほぼ同じである。企業はこれらについて、自社の特徴を把握し、学生にしっかりとイメージさせながら説明できているかどうか、自社の取組を振り返ることが必要。

全体のまとめと総括②

中小企業の魅力は企業と学生で乖離している

- 中小企業の魅力として捉えられる項目のうち、企業の認識と学生の認識が乖離している項目がいくつかある。自社の魅力としてどこがあてはまるかを理解し、学生に発信する際には十分理解してもらえるよう、話し方や伝え方を工夫する必要がある。

目の前の学生が何を求めているのかを把握した対応が大切

- 地域やエリア、大学のレベル等、様々な要因によって、学生が「何を重視して会社を選択するか」は違ってくる。自社が求める人材はどのような学生なのかをイメージし、そういった学生に対して、自社のどの部分を訴求すれば効果的なのか、を考えることが重要。
- 「今どきの学生はこうだから」と決めつけるのではなく、目の前の学生が何を求めているのか、選考過程の中でしっかりとヒアリングしながら、自社への興味喚起、動機づけをしていく姿勢が重要である。

中小企業志向の高い学生(特に女子学生等)に対するアプローチが重要

- 女子学生は中小企業志向が男子学生よりも高いのにもかかわらず、企業側の重視度はそれほど高くない。女子学生へのアプローチ方法を変えたり、制度等を変えることによって、優秀な人材の確保につながると考えられる。
- 大手企業を志向するような学生に対しては、「安定性」「給与の高さ」等について比較的されるため、大手と遜色ない水準でない場合はアピールを控える。逆に、最初から中小企業志向が高い学生も多数存在するため、そこに的を絞れば効果的にアピールできる。アピールする内容については自社の社風や仕事内容等が大切となる。ターゲット設定が大切。